



<「ヤマタノオロチ」のおぶじえについて>

各地に伝わる蘇民将来伝説により、武塔神（素戔鳴尊）が疾病封じの神様と崇められてきました。又、古事記には、素戔鳴尊の八俣の大蛇退治の武勇伝が書かれています。

古来より色々な疾病が流行り、私たちの祖先は、それに打ち勝って今日があります。

今世界は、新型コロナウイルスと言う大変な疾病に直面していますがこれに負けない為、矢俣の大蛇をコロナに見立て、それを疾病の神である素戔鳴尊が退治する様を表現しコロナ退散の祈願と、

人々が「ともにコロナと戦おう」という意識が高まる事を願うものです。

<「茅の輪」について>

昔々、北海に居られた武塔神（素戔鳴尊）が南海へ旅をされている途中、一夜の宿を求めて二人の兄弟を訪ねました。

裕福な弟の巨旦将来は断りましたが、兄の蘇民将来は貧しいながらも

快く迎え入れ武塔神を手厚くもてなしました。

武塔神はその礼として蘇民に厄除けの「茅の輪」授けました。

数年後疫病が流行り蘇民将来一族だけは生き残り難を逃れたそうです。

その故事により「茅の輪」をくぐると疫病避けになると言われています。